備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成18年度～	根拠法令・例規等		介護保険法
総合計画	大項目	基本目標 02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先	担当課（室）	介護福祉課地域包括支援センター
	中項目	基本施策 01 やさしさあふれるまちづくり		職・氏名	所長　岡正千丈
	小項目	施策 05 介護保険		電話	64-1844
事務事業名		08 任意事業	このシート作成に要した時間		3.5 時間

事業の目的

Plan

対象（誰・何に対して）	市内の要援護高齢者及びその介護者
目的（何のために）	地域の高齢者が、住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるようにするため、地域の実情に応じた必要な支援を行う。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	実情に応じた支援として、高齢者配食サービス等の事業を実施し、高齢者が自立した日常生活を維持できるようにする。

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績

Do

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	配食サービス事業	65歳以上のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯等で調理に不安のある世帯を対象に配食サービスを行う。 今後、利用者のニーズに合った配食弁当が選べよう事業者に配達エリアの拡大を働きかける。	◎
	あんしん電話設置事業	65歳以上の病弱なひとり暮らし高齢者や、75歳以上の高齢者のみの世帯でいずれか一方が寝たきり、または、病弱な世帯に対して緊急時の連絡用のあんしん電話を設置する。 もしもの時は、電話を通じて24時間体制で通報センターにおいて受付を行い、近所の協力員や消防・警察への連絡を行う。	◎
	家族介護支援クーポン券交付事業	家族の身体的・精神的・経済的負担の軽減を目的に、重度介護認定者を在宅で介護する非課税世帯の家族に対して、日常よく使用する介護用品を買うことができるクーポン券を交付し、経済的負担を軽減する。	○
	高齢者世話付住宅援助員派遣事業	県営住宅20戸（シルバーハウジング）を対象に日常生活上の生活相談や指導、安否確認、緊急時の対応や一時的な家事援助を行う生活援助員を派遣し、毎日が生き生きとした生活が送れるよう、高齢者の安心な住環境を確保する。	▲
	介護者の会 家族介護者教室事業	介護を行っている家族、または介護に関心がある人を対象に、情報交換・リフレッシュ・仲間づくりを目的に「介護者の会」を開催。また、地域性を考慮しながら自主的な組織となるよう働きかける。	○
	住宅改修支援事業	要介護被保険者からの住宅改修に関する相談等を受け、住宅改修費の支給申請に必要な理由がわかる書類を作成した場合に経費の援助を行う。	▲
	認知症高齢者見守り事業	認知症の人をかかえる家族、一般市民を対象に、備前市地域包括支援センター主催により認知症介護家族交流会を開催する。	○
	成年後見制度利用支援事業	成年後見制度の利用にあたり、必要となる費用の負担が困難な者に対し、助成金を交付する。	◎

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

決算額

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
事業費	直接事業費	千円	15,075	15,834	16,492
	必要人員人件費		1.15人 7,099	0.81人 4,976	0.78人 5,433
	事業費計		22,174	20,810	21,925
財源	国県支出金	千円	13,304	12,486	13,155
	受益者負担				
	繰入金		4,435	4,162	4,385
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		4,435	4,162	4,385
受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標

結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	説明	年度末あんしん電話設置台数		
結果指標量		261	273	266
対前年比	%	96.9%	104.6%	97.4%
活動コスト	円	7,447,000	7,366,000	7,497,000
単位当たりコスト		28,533	26,982	28,184

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
高齢者等配食サービス個数	目標値（A）	24,500	24,500	24,500	24,500
	実績値（B）	22,985	20,369	20,244	到達目標値
	達成率（B/A）	93.82%	83.14%	82.63%	25,000

成果指標設定の考え方・式や説明

◇成果指標：地域に応じた支援策として、高齢者等配食サービスの総配食数をもって検証する
◇実績値（食）：高齢者等配食サービス年間総配食個数・・・・・備前、日生、吉永地区合計

事務事業の評価

Check

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

			妥当性評価
妥当性の評価	市の関与の妥当性	■ 市が実施するよう法令で義務づけられている	A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い
		□ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
		□ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない	
		□ 事業の内容が一部の受益者に偏っている	
		■ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
		■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
		□ 事業開始当初の目的から変化してきている	B
		□ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	
		■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	
	必要性		
	市民ニーズ	■ 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト手段	■ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している	効率性評価
		□ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある	A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い
		□ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある	
		□ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい	
		■ 受益者負担率は適正である	
		□ 受益者負担率を見直す余地がある	C
		□ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	
		□ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
		■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
有効性の評価	目的達成度市民参画度	■ 成果指標の設定は適切である	有効性評価
		□ 成果指標の到達目標値は達成できそうである	A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い
		□ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している	
		□ 成果指標達成率は80%未満となっている	
		□ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
		□ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい	D
		■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
		□ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

説明
・あんしん電話設置事業の利便性の向上（一部機器の変更）と受益者負担の調査研究を行う。
・配食サービス委託業者の新規参入とサービス提供エリアの拡大を推進。

総合評価

配食サービス事業の利用者数、総配食数とも年々減少しており、ニーズ及び利用状況等について、再度、調査・研究が必要。なお、あんしん電話設置・高齢者世話付住宅援助派遣事業については、緊急時の対応等により独居高齢者等の「安全で安心した暮らし」に寄与していると考える。

総合評価：A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い　**C**

平成26年度の方向性・取組目標

Action

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

取組目標
市民ニーズに対応した内容となっているかを全事業を対象に検証する。また、他市町村の情報を収集し、介護予防・日常生活総合事業への一部事業の転換も考慮しながら、事業内容等の改善と拡充に取り組む。